

表象・メディア論コース ガイダンス

2024年5月22日（水） 19:00~20:00
32号館 128教室

表象・メディア論コース

表象・メディア論コースは、現在の人文科学が取り組むべき課題に柔軟に対応し、大胆に挑戦する新たな研究を志向している。古典的芸術から現代の表象文化・思想にいたる広範な領域を研究対象とし、従来の学問研究の固定的枠組みからは自由な横断的ネットワークを構築する視点に立って、芸術・政治・経済・社会の諸問題、テクノロジーの進化、身体感覚の変容など現代的状況のダイナミックな把握をめざす履修環境を用意する。

当コースでは、伝統的な諸芸術分野（文学、演劇、美術等）のみならず、従来の学問領域の範囲内におさめにくいメディア・アート、テレビ、写真、デジタル表現、サブカルチャー、パフォーマンス・アーツ、さらには未来に展開されるであろう文化現象をも射程に収めつつ、それらを「メディア」「身体」「イメージ」という三つのキーワードを軸としながら分析し、多種多様な創造的営為の根源をさぐり、今日的意義を考察してゆく。

既成学問の枠組みにとらわれることなく人文科学の新地平を切り開く意欲と能力をもつ本格的研究者の養成とともに、出版界やマスメディアの活動に不可欠なメディア・リテラシー能力の向上をはかり、広告関係や学芸員など多様な領域で要請される大胆な企画力・想像力を培い、22世紀をも視界におさめた知性の土台を構築する人材を育成することをめざす。

表象・メディア論コース 教員

石岡良治

岡室美奈子

坂内 太

関 直子

ドミニク・チェン

橋本一徑

長谷正人（修
士課程のみ）

藤本一勇

細馬宏通

溝口彰子

中島那奈子（博士課
程のみ）

教員 専門分野

岡室美奈子

テレビ論、現代演劇論、オカルト芸術論

長谷正人

テレビ研究、映画研究、写真論、テクノロジーと社会、メディア論、複製芸術論、メディア社会学

藤本一勇

フランス現代思想、ポストモダン論、メディア思想史、情報環境論、生政治論、科学認識論、ネットワーク社会論、アナーキズム論、戦後日本思想史、風刺論

ドミニク・チェン

デジタル表現、ウェブサイエンス、ウェルビーイング・テクノロジー、人工生命（ALife）、サイバネティクス（情報学）

教員 専門分野

坂内 太

パフォーミングアーツ論、演劇及び文学論、写真論、映画論、アニメ論、マンガ論

細馬宏通

日常生活における会話・身体動作研究、共同行為における同期の達成に関する研究、視聴覚メディア史研究、アニメーション、マンガ、ドラマなど映像作品の分析

中島那奈子

上演分析を基礎にした国内外のダンス、パフォーマンス研究、ダンスドラマトゥールクとしての実践理論

教員 専門分野

石岡良治 表象文化論、視覚文化論、ポピュラー文化、マンガ・アニメ研究

関 直子 近現代美術史、展示表象論

橋本一徑 表象文化論

溝口彰子 視覚文化研究、ジェンダー論、クィア理論、フィルム・スタディーズ

論文 題目

2021年度 修士論文

2021年度 博士論文

- | | |
|------------|--|
| 上野 悠 | ビデオゲームにおけるプレイの失敗について—失敗がもたらすプレイヤーの自由 |
| 香月恵美子 | 宝塚の舞台化粧論 |
| 瀬尾 知郷 | 韓国ポピュラー・ミュージックにおけるシティ・ポップの成立に関する研究 |
| 高橋 倫夫 | 写真と恐怖—撮影に対する警戒心の歴史：「魂」から「プライバシー」まで— |
| ZHANG ZHAO | Phatic Lights：孤独感を緩和するためのリモート型インタラクティブシステムの研究 |
| 名倉 優 | ウェス・アンダーソンと現代アメリカ映画—『天才マックスの世界』における私的問題と表層的装飾— |
| 野口 大介 | ゴムのイメージ文化史—「エラスティック」な素材の発展と「エキゾチック」な諸側面— |
| 樋口 貴太 | 戦後日本ポピュラーカルチャーにおける「大戦兵器と美少女」の表象 |
| 人見 隼平 | ドゥルーズ『差異と反復』における「存在の一義性」とその体系的意義—永遠回帰の存在論、カオスモス、賽の一振りの一義性— |
| 何 坤 | 写真と廃墟—1980年代以降の日本の廃墟写真を中心に |
| 渡辺 友美 | セーラー服の文化史—19世紀の英米から20世紀の日本へと至る「神話」の継承と変転 |
| 博士論文 | |
| 太田美奈子 | テレビ電波受信のメディア考古学—青森県を事例とした地方の初期テレビ受容に関する研究— |

修士論文 題目

2022年度

修士論文

- | | |
|-------------|---|
| 荒木 大 | 溶け込むイメージ—カムフラージュにみる身体と空間の相互作用 |
| WOO HOI KIU | 日本アニメにおける中華表象—中華文化の過去・現在・未来 |
| 陣野 武史 | 映画におけるチェスの表象—戦争と知性の表象を中心に— |
| 孫 悦馨 | 次元の狭間に立つキャラクター—「2.5次元舞台」における人物の造形を再考する— |
| 矢島万智歩 | 少女たちの音楽嗜好と少女マンガ文化 |

表象・メディア論コース 院生誌

In-vention

第10号（2021年度）

論文

荒木大

消去する技法
——第一次世界大戦前後におけるカモフラージュの実践と美術——

批評

村山雄紀

『おかえりモネ』論
——「カストロフ」の「前」と「後」のあいだで——

研究ノート

陣野武史

ジャック・リヴェット『王手飛車取り』の構造とチェスの関係性

第11号（2022年度）

論文

吉田杉

『プルーストとシーニュ』からみる人生と芸術—多元的な生を求めて

浅野修平

初期ドゥルーズと《人間》の完成—《合目的性》の問題機制—

研究ノート

渡辺友美

米国におけるデタッチャブル・カラーの流行と日本におけるその展開

孫定康

風景から身体へ 押井守とうつのみや理

吉村佳純

「道具を自作する」行為を中動態で捉える

表象・メディア論学会 学会誌 『表象・メディア研究』

ISSN 2185-923X

表象・メディア研究

Studies of Media, Body, and Image

第13号

- 
- | | |
|-------|-----------------------------------|
| 関 直子 | 流動するものを捉える |
| 岡添 瑠子 | イミ・クネーベル作品における「見えないもの」と「見ること」 |
| 小林 嶺 | エマニュエル・レヴィナス「全体性と無限」における「言語」のアポリア |
| 蓮子 雄太 | ラ・メトリーの思想における「良心の呵責」 |
| 渡辺 友美 | 戦う少女のユニフォーム |

2023年3月

レビュー

安田和弘

特別ディスカッション企画

「『ドライブ・マイ・カー』と「村上春樹 映画の旅」展」

片岡一竹

ポール・B.プレシアド『あなたがたに話す私はモンスター』（法政大学出版局、2022年）

朴夏辰

（著）サミュエル・ベケット・（訳）岡室美奈子、長島確、木内久美子、久米宗隆、鈴木哲平
『新訳 ベケット戯曲全集3 フィルム 映画・ラジオ・テレビ作品集』（白水社、2022年）

表象・メディア論 コース室のご案内

表象・メディア論系コース室は33号館8階0803号室です。

質問などがある場合、論系室を訪問していただければ、
講師や助手の方々が対応しております。

お問い合わせは次のアドレスまで。
「表象・メディア論系室」宛でどうぞ。

contact@hyosho-media.com